

平成30年度 第3回 大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日時 : 平成31年1月21日(月) 17:00~18:38
場所 : 大阪府立狭山池博物館 ホール
出席者 : 委員) 岡田委員・小山田委員・佐伯委員・向山委員(会長)・森委員・和田委員
計6名 (欠席=金田委員・栄原委員・中川委員)
事務局) 武井河川室長、小池河川環境課長、尾花富田林土木事務所長
工楽館長、吉井副館長
関係者) 大阪狭山市教育委員会 山崎部長、大阪狭山市都市整備部 楠部長
大阪狭山市政策推進部 田中部長、狭山池まつり実行委員会 菊屋会長

まとめ

(1) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

- ・ 中間答申(案)について同意。
中間答申の方向性に基づき、運営主体において具体的な取組みを検討・実践していくこと。

概要

(資料に基づき、事務局より説明)

〔各委員の主な意見〕

(全体的な意見)

- ・ (中間答申)【案】について同意。

(岡田委員)

・ “来館者に対するおもてなし向上”の取組みで挙げられている「メッセージノート」について、記載された利用者の生の声を博物館ホームページに掲載してはどうか。来館を検討されている方へのきっかけになるはず。

→ (事務局回答) ホームページ改善の取組みの中で検討する。

・ 「土木の歴史的価値の継承」の取組みにおいては、土木構造物だけでなく、都市や地域の歴史など狭山池の文脈で広げた展開をすることで、より魅力が向上すると思う。

→ (事務局回答) 「土木の歴史的価値の継承」「土木事業・土木技術の歴史『知』の交流発信拠点」「地域魅力創造」の3つのポテンシャルをバラバラに取り扱うのではなく、ストーリーを持たせた展開とする。

・ “空間活用の推進”の取組みにおいて、主役である現物狭山池を必ず見てもらえるよう、博物館と狭山池の視覚的連続性や誘導策について十分検討していただきたい。

(小山田委員)

・ “今後の博物館の運営展開”に示される取組みを行うにあたり、現在の体制・予算でできるのか、適切な役割分担ができていくのかといった詳細を詰めていく必要がある。

・ 取組みの大小に関わらず、新たな取組みの実現には基本～実施設計が必要になる。例えば、展示模型を新たに作るにしても、新たな配線等が発生するため、管轄等の調整が必要になる。そういったところもきちんと考えて進める必要がある。

・ “空間活用の推進”の検討においては、誰もが利用できるようユニバーサルデザインについて考えるべき。必要であれば専門家の方も借りるべき。

→ (事務局回答) 実施に向け検討していく。

(佐伯委員)

- 博物館の情報発信に SNS をもっと活用すべき。来館者からの広がりも期待できる。
- (事務局回答) “今後の博物館の運営展開” の具体的な取組みに、「情報発信の強化」を追記する。
- SNS での情報発信の成果を評価指標としてはどうか (例えば、Instagram のフォロワー数)。
 - 博物館開館 20 周年は重要なポイント。土木や建築などの学術シンポジウムを開催し、著名な先生の基調講演などもできればよいと思う。

(向山委員)

- “ニーズ・シーズを把握した運営の実施” に示される博物館をより魅力のあるものにするためのサイクル図に関し、博物館の業績を評価できる KPI を検討し、開館 20 周年より前の早い時期に、期待される効果が発揮できているかなど確認のうえ、審議会にも諮っていただきたい。

(森委員)

- “展示の改善” に関して、狭山池のかんがい範囲を示す模型に、現在のかんがい範囲や防災施設の情報を反映してもらえるとよいと思う。これらの情報は、ボランティアガイドをする中で利用者からよく質問を受けることであり、利用者の関心があることだと思う。
 - 安藤建築の魅力を伝える取り組みがもっとできればよいと思う。
 - 外国人来館者も増加しており、英語解説の早急な整備が必要。
- (事務局回答) 実施に向け検討していく。

(和田委員)

- 安藤建築の空間をうまく活用して、年に数日でもこれまでとは違った特別な空間活用やイベント開催などであれば、新たな魅力創造につながると思う。
- 開館 20 周年に向けての目標設定はわかりやすい。狭山池の日本遺産登録なども重要な視点。できたらいいなで終わらないよう具現化していく必要がある。